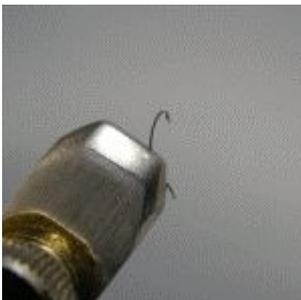


スガモ流たなご針の研ぎ方

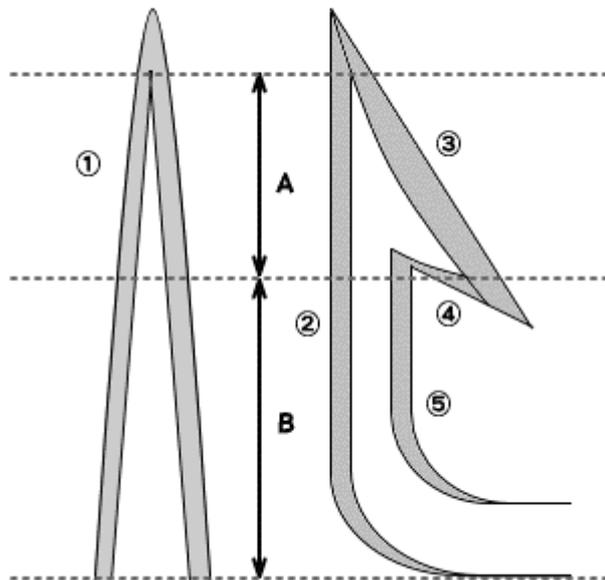
【たなご針の手研ぎに必要なツール】

1. 専用のヤスリ
 2. ルーペ
 3. 針ホルダー
1. 針研ぎ用のヤスリは研ぐ部分によって、(a)シート状(第一精工 ダイヤモンド砥石(#600)、ダイヤモンドシートヤスリ#1000、ダイヤモンドシートヤスリ#1500、ハードアルカンサス(#6000))、(b)円錐状(ダイヤモンドヤスリ#1000、ダイヤモンドヤスリ#1200、ダイヤモンドヤスリ#1500)、針状(ダイヤモンドヤスリ#1500 細、スーパーストーンヤスリ「丸」#800)または丸棒状(棒アルカンサス#6000)(c)扁平針状(スーパーストーンヤスリ「平」#800)のヤスリを使い分けることが理想です。(a)シート状のヤスリは針先の側面と外側を研ぐために用います。(b)円錐状、針状、丸棒状のヤスリは針先の内側を研ぐために、(c)扁平針状のヤスリはカエシの裏側と曲がりの内側を研ぐために用います。※詳しくは以下でご説明します。
 2. 当店では倍率 10 倍のスタンドルーペを針研ぎ専用として販売しています。倍率は針研ぎ名人の意見を取り入れて設定いたしました。10 倍より倍率の大きいルーペは研ぎ上がりの確認には便利ですが、レンズと手元の距離が近くなりすぎるため研ぎの効率が悪くなります。また、見えすぎると削りすぎてしまうのが人間の心理で、結果的に効率が悪くなります。
 3. 針ホルダーは当店で専用のオリジナル鉤ホルダーを販売しております。スタンドルーペと合わせてご利用になることをお勧めします。近年はフライ用の卓上バイスに固定してタナゴ針を研ぐスタイルもあるようです。しかし、針の側面や外側を研ぐ場合には、ホルダーを動かしながら針を研いだ方が力を入れやすく、効率的に研ぐことが出来ます。また、卓上バイスを利用する場合は手元の高さが高くなりますので、ルーペは手に持つか、工夫してバイスに取り付ける必要があります。以下ではホルダーを使った針研ぎの手順をご説明します。

【たなご針の研ぎ方】

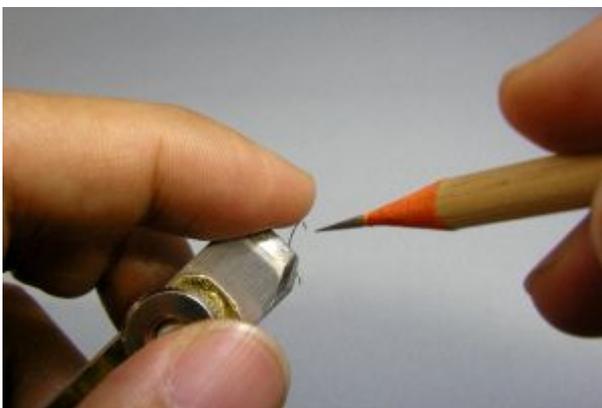


1. ホルダーで針を押さえる。
2. (a)シート状のヤスリ(第一精工 ダイヤモンド砥石、ダイヤモンドシートヤスリ、ハードアルカンサス)で両側面(図中①)を研ぎます。第一精工 ダイヤモンド砥石(#600)は荒研ぎ用、ダイヤモンドシートヤスリ(#1000、#1500)は中研ぎ用、ハードアルカンサス(天然石は#6000に相当)は仕上げ用です。



3. (a)シート状のヤスリ(同上)で針先の外側(図中②)を研ぎます。
4. (b)円錐状、針状、丸棒状のヤスリ(ダイヤモンドヤスリ#1000、ダイヤモンドヤスリ#1200、ダイヤモンドヤスリ#1500、ダイヤモンドヤスリ#1500 細、スーパーストーンヤスリ「丸」#800、棒アルカンサス)で針先の内側(図中③)を研ぎます。棒アルカンサス(天然石)は#6000 などで仕上げに適します。
5. (c)扁平針状のヤスリ(スーパーストーンヤスリ「平」#800)でカエシの裏側(図中④)と曲がりの内側(図中⑤)を研ぎます。

- ※ 針の太さは元の針の 1/2 まで研ぎます。
- ※ 図中 A の長さは B の長さより短くなるようにします。
- ※ 市販の針にはばらつきがありますので、研ぎ針用には針先が外側を向き加減のものを選びます。
- ※ 5の手順は針研ぎの作業のなかでは最も難しいため、失敗の可能性が高くなります。5の手順はやりすぎないように注意しましょう。削る量は図中②と同じではなく、極わずかです。模式図のため、削る量は図の面積とは異なります。



- ※ 研ぐ際は左写真のように人差し指で針の頭を押さえるとぶれ難くなります。

【たなご釣りで使用するハリスについて】

たなご釣りでは一般的にナイロンやテロンのハリスを使用します。釣り人によって考え方が異なりますので一概にどちらがよいとは言えませんが、最近ではテロンを使う釣り人が増えています。テロンはナイロンよりも軟らかい性質をもち、ハリスとして使用すると水中で針を横方向に動きやすくさせるため、誘いやすく、掛けやすいハリスとして人気があります。とりわけ当店で販売しているテロン#120は一般的に入手しやすいテロン#100よりも細く、水中での動きが格段に優れています。強度面においても申し分ありません。テロン#120は道糸として通常使用されるナイロンの0.3号よりも太いため、根がかり時などに強すぎるのがむしろ問題になるくらいです。たなご釣りでは針先の形状以外に、ハリスの柔軟性と長さのバランスが針掛りの良し悪しに影響します。このバランスは使用するハリスによって異なるものと考えられますが、少なくともテロンを使用する場合、ハリスは短いほどよいとされています。理想的にはチチワを含めて1.5cm前後(ほぼチチワを結べる限界です)で、小さなチチワを作るには8の字結び器を使う必要があります。がまかつから2006年12月に発売された糸付き極タナゴはテロン#100を使用し、ハリスの長さはチチワを含めて3cmになっています。手軽に使える本格的な糸付き針として大変便利ですが、一段階上の世界を覗いてご覧になりたい方は、当店で販売している特製とぎばりをお使いになるか、ご自分で研いだ針にテロン#120を出来る限り短く結んで、お使いになってみてください。

【よくあるご質問】

■ ダイヤモンドシートヤスリとハードアルカンサスはどう違うのですか？

ハードアルカンサスは粒子が非常に細かいので仕上げに適しています。一方、ダイヤモンドシートヤスリは#1000と#1500なので、効率的に削ることができます。また、ダイヤモンドシートヤスリはハードアルカンサスよりも薄く、角が丸みを帯びていないため、細かい作業がしやすく出来ています。

■ スーパーストーンヤスリはダイヤモンドヤスリとどう違うのですか？

スーパーストーンヤスリをダイヤモンドヤスリと比較した場合、長所と短所があります。スーパーストーンヤスリの長所はダイヤモンドヤスリに比べて安価で、加工しやすいということ。一方の短所はダイヤモンドヤスリに比べて磨耗しやすく、力を入れすぎると折れやすいことです。スーパーストーンヤスリが磨耗した場合にはダイヤモンドシートヤスリ#1000などを使って研ぎなおすと使いやすさが蘇ります。

■ シート状の細長いスーパーストーンは何に使うのでしょうか？

シート状に細長く切って販売しているスーパーストーンはご自分で自由な形のヤスリを作るための材料です。そのままシート状のヤスリとしても利用できますが、それだけでは持ちにくいのでなんらかの細工

を施した方がよいと思います。

■ お勧めの針があれば教えてください。

針研ぎには針の硬度と針先の形状が研ぎやすさに関係してきます。針の硬度という点で比較的柔らかく研ぎやすいのはオニのタナゴ針で初心者にはお勧めできます。当店で販売しているリーズナブルなトギ鉤はその多くがオニのタナゴ針をベースにしておりますので、研ぎ方を参考にしてみてください。一方、針先の形状という点では、カエシから曲がりの内側までの距離(カエシの下の針先の長さのことです)が短いほど、掛りの良い針先に仕上げやすくなります。この点で従来から定評があるのはオニ新半月小、オーナー三腰、がまかつ新半月などで、後にがまかつから販売された極タナゴは「手研ぎ不要」をうたい文句にするほど市販の状態では針先が短く、カエシが小さく出来ています。しかし、極タナゴは本格的な手研ぎ針に比べると軸が太く、カエシも大きく出来ていますので、小さなタナゴを狙う際には針先やカエシの裏側を軽く研いでおくだけでも釣果が大きく違ってきます。もちろん、掛りを優先した針は常に万能というわけではありません。針先とカエシの小さな針は大きな魚をばらしやすいので、魚のサイズや活性に応じて研ぎ方や針の型を変えることも、たなご釣りの重要なテクニックのひとつです。手返しという点では、エサ付けのしやすさも重要です。この点でオニ新型は比較的軸が長く、指でつかみ易い形状をしているため安定的な人気があります。

■ 最初に揃えたとしたらどのヤスリがいいですか？

最初から全て揃えるのは大変なので、まずはダイヤモンドシートヤスリ#1000 とダイヤモンドヤスリ#1000 を使って全体の形を整える練習をすることをお勧めします。その他のヤスリは必要になり次第、買い足していけばよいのではないのでしょうか。